

1. 背景とねらい

国土交通省が直轄で管理している河川では堤防管理のため年2回除草を実施し、その刈草の有効活用や処分費の低減に向け、飼料利用等と呼び掛けている。また、堤防造成時には、維持管理と環境緑化のためイネ科草が播種されていることから、河川堤防は豊富な草資源である。畜産農家が刈草を飼料利用するにあたっては、その植生、安全性および栄養価を把握する必要がある。また農家への供給体制などの課題を明らかにし、今後、飼料資源として利用する場合の農家に対する的確な情報提供に備える。

2. 成果の内容

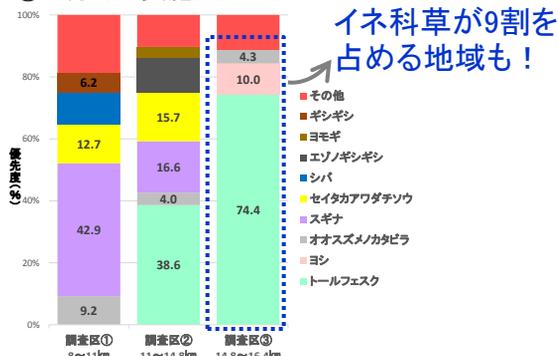
調査河川：小矢部川右岸堤防

調査地域：河口からの距離が8～11kmの調査区①、11～14.8kmの調査区②、14.8～16.4kmの調査区③に分けて実施

49草種を確認(赤囲みは有毒草)
地域によってはイネ科粗飼料として期待充分

表1 小矢部川堤防刈草の草種(調査日：平成26年5月20日、調査場所：右岸河口から8.0～16.4km)

アイノコヒルガオ	カタバミ	スイバ	トールフェスク	ヘクソカズラ
アオスゲ	カモガヤ	スギナ	ナンバンカラムシ	ヘラオオハコ
イタドリ	カラスノエンドウ	ススキ	ノアザミ	マルバハッカ
イチゴツナギ	ギシギシ	スズメノヤリ	ノゲヌカスゲ	ムラサキツメクサ
ウマノアシガタ	クズ	セイタカアワダチソウ	ノヂシャ	ヤエムグラ
エゾノギシギシ	コウゾリナ	セイヨウアブラナ	ハコベ	ヤブガラシ
オオイスノフグリ	コバンソウ	セイヨウタンポポ	ハルガヤ	ヤワラスゲ
オオスズメノカタビラ	コモチマンネングサ	タケニグサ	ハルジオン	ヨシ
オオハコ	シバ	タチイヌノフグリ	ヒメオドリコソウ	ヨモギ
カキドウシ	シロツメクサ	チガヤ	ヒメジオン	



栄養価はイタライ結実期程度

表2 小矢部川堤防刈草の一般成分

サンプル名	乾物中(%)			
	粗蛋白質	粗脂肪	粗灰分	粗繊維
小矢部川堤防刈草 (H26-27調査平均値)	9.0	2.8	8.8	32.6
イタリアンライグラス乾草 (1番草・結実期)※	8.7	1.5	9.9	36.5

※日本標準飼料成分表(2009年版)より

乾草利用の場合は、刈取後晴天下で2日間、堤防上での乾燥が必要



農薬や重金属含量は基準値以下

表3 小矢部川堤防刈草の残留農薬および重金属調査 (ppm)

サンプル名	残留農薬	銅	ヒ素	鉛	カドミウム	亜鉛
小矢部川堤防刈草 (H26-27調査平均値)	検出なし	2.9	検出なし	0.7	0.12	16.5
基準値※		100	2	3	1	300

※ヒ素、鉛、カドミウムの基準値は「飼料の有害物質の指導基準の制定について」(昭和63年10月14日農林水産省畜産局長通期63畜B第2050号)の管理基準の乾草等の項による。銅および亜鉛はNRC乳牛飼養標準第6版の中毒発生下限値による。

刈草が搬入されてから梱包までにかかる農家の労働費は稲わら回収と同程度



回収面積	135.6a
搬入した刈草総重量	2,270kg
作成ロール数	180個
作業時間	12時間
10aあたりの労働時間	53分/10a
労賃を1,500円/hとすると	

労働費は 1,327円/10a

県内の稲わら回収の労働費※1,529円/10aと同程度
※平成26年度飼料作物の栽培・技術マニュアル 生産費調査(富山県農林水産部)より

3. 成果の活用

河川堤防刈草地域資源の有効利用について情報提供し、国土交通省と利用を希望する農家とのマッチングをし、継続的な利用となるよう支援をする